

11 探究理科 2 年 自然科学探究 I 評価モデレーション

9月3日(木), 2年探究理科の「自然科学探究 I」において, 研究ポスターを題材とした「評価モデレーション」を行いました。今回の活動では, 研究ポスターを実際に評価することを通して, **「私たちは, どのような研究を良い研究だと考えているのか」を考え, 評価の根拠を言語化**しました。

まず, 全国レベルの研究ポスター2作品を題材に, 「研究内容」「ポスター」「その他・全体」の3つの観点から, 良いところや改善できるところを付箋に書き出しました。その後, 2作品を比較して, より優れていると思う研究を選び, その理由を考えました。同じポスターを見ても評価する視点は人によって異なり, 生徒からは「ポスターの見やすさ」や「図表の分かりやすさ」, 教員からは「目的から結論までの一貫性」や「論理性」, 「研究方法の妥当性」など, さまざまな意見が出されました。

後半では, 現在使用している研究発表の評価シートを見直しました。「社会への貢献度」「研究の独自性」「データの信頼性」「発表態度」などの評価項目を加える提案や, 「先行研究」の配点を見直すこと, 「問い・検証方法・考察・結論」の一貫性をより細かく評価することなど, さまざまな改善案が出されました。

また, 評価シートを改善することが, 自分たちの研究を改善することにつながるという気づきもありました。「研究としての評価」と「発表大会で選抜するための評価」は同じなのか, という新たな問いも生まれ, 研究内容だけでなく, それを分かりやすく伝える力や聞き手の興味を引く力についても考えました。

今回の活動を通して, 生徒たちは「評価される側」から一歩進み, 「評価する側」の視点から研究を捉え直しました。**「良い研究」とは何か。その答えは一つではありません。さまざまな視点から研究を見つめ, 評価の根拠を考えることは, 自分たちの研究をより良くすることにつながります。**今回の気づきを生かし, 今後の課題研究では, 「何を明らかにしたいのか」「どのように検証するのか」「得られた結果から何が言えるのか」「それをどう伝えるのか」を意識しながら, 研究をさらに深めていきます。



～生徒の感想～

- ・人によって見方や考え方の差で評価が結構違うんだと思った
- ・研究に関わっていない人が評価するため, 自分が思っていたよりも伝わりやすさが重視されていることに気づいた
- ・自分が思っているより, いろんな観点で人が見ているのだなと気づいた
- ・自分たちで自分たちの評価基準を作ることができるのは, よりその評価基準を満たすために頑張ろうというモチベーションにつながる
- ・自分でよい研究はどのような研究かを考えることができたので, 自分たちの研究がそこに近づくようにしていきたい